

文化財ボランティア 火曜会通信

第26号

発行日:平成17年8月1日

発行:伊丹市文化財ボランティアの会

発行所:伊丹市千鶴1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

市民対象「緑と水と文化財を訪ねて」のガイド活動報告

田中 實

さる6月18日、当会主催(伊丹市、伊丹市教育委員会、いたみアピールプラン推進協議会後援)の標記ガイド活動が実施されました。当日は梅雨期にも拘らず、好天に恵まれ、一般市民参加者40人に当会員を加えると総勢70人近い参加者となり、1回目の催しとしては非常に盛況でした。ご参加いただいた皆様、誠に有難うございました。

◎ 当日の進行

当日の行程は次のとおりでした。

午前9:30 有岡城跡→(大溝前通り)→旧岡田家酒蔵→(宮ノ前通り)→猪名野神社→(伊丹緑道)→水車・辻の碑→(多田街道)→教善寺→(駄六川右岸・緑ヶ丘公園中央道休憩)→伊丹磨寺→(駄六川上流)→緑ヶ丘公園 午後12:30 解散

9:20 過ぎに受付を終え、一般参加者の集合写真を撮影の後、会長の挨拶、係りからの連絡、配布資料の説明などが行われたあと、3グループに分かれて上記のコースにしたがってガイド活動が行われました。厳しい暑さで、多少疲れた様子の人も見受けられましたが、約3kmを歩き終え、全員ほぼ予定の時刻に最終地に到着。副会長の挨拶、アンケートの回収、出発時に撮影した写真の配布などを行って解散しました。

◎ アンケートの結果

39人の方から回答がありました。主な点は次のとおりです。

- ・「良かった」の回答:コースの印象:86% 配布資料:82% ガイド説明:80% 歩行距離(時間):65% 全体を平均すると「良かった」が81%でした。
- ・興味があった箇所(複数回答):旧岡田家酒蔵 伊丹緑道 教善寺 辻の碑 多田街道 駄六川と続きます。多田街道周辺に結構、興味を持たれたようです。
- ・今回の催しを知った方法:広報「伊丹」と知人・友人が殆どでした。
- ・「次回参加したい」の回答:89%の方々が次回も参加を希望されています。

アンケートの結果を見ますと市民の方々に伊丹独自の歴史、文化、自然を再発見していただけたものと思います。

..... 主な行事予定(7月~9月)

8月09日(火)	定例会	紙芝居・ペープサート上演
8月20日(土)	わくわく教室	伊丹の「昔話」と古代食 (中央公民館)
8月23日(火)	屋外研修	猪名野神社~発音寺~長寿蔵2階 (担当:土日グループ)
9月13日(火)	定例会	中央公民館
9月27日(火)	屋外研修	市内東南部を歩く (担当:水曜グループ)

巡礼街道とは観音霊場めぐりの道で、23番勝尾寺から24番中山寺、二十五番清水寺に至るまでをいう。

4月26日、曇天の下、総勢30数人で街道を歩いた。阪急山本駅近くの「木接太夫彰徳碑」から中山寺までを巡る街道を。接木の技術に優れていたのは坂上善太夫さんだけではなかったと思う。秀吉公から彼がこの称号を与えられる迄の間には数多の木接太夫さんがいたのでは、と説明を聞きながら思った。

松尾神社への道すがら家の植木がすばらしく見事。さすが植木の町だと感心。松尾神社の祭神は坂上田村麿、社殿は一間社流造。禰宜さんのお話によれば、社名にみるとおり京都にある松尾大社との関係が深く、酒造家の崇敬も深かったろうと思われる。伊丹の酒造家たちは杉玉を受納するのに京都の松尾大社まで足を運ばなくとも、この神社で受納できたのではと推量するMさん。それには私も納得。また、近くを流れる桂川に由来する「トントコ祭り」も往時は盛大だったようで、その山車も見せていただいた。立派で豪華。新しかったせいかな？道すがら山本園芸流通センターの前を通った。牡丹が咲いていた。これは薬用牡丹から作ったとのこと。花は大きくて立派。白いのが良かった。芍薬は薬になると思っていたが、牡丹も薬になったのだろうか。センター前を過ぎ、右方へ道を登る。その突き当りが泉流寺。ここは無住寺とのこと、お世話される方々がわざわざ寺に見えて「眠り観音」の説明や天満神社の蓮の花の拓本を見せて下さった。観音様は思ったより丈長で、お顔は好ましい面立ちだった。泉流寺を少し下がって正念寺。このお寺は街道沿いにありこじんまりしている。古くは道行

く人に湯茶の接待をしていたとか。これぞ本当のボランティア活動だと思った。

天満神社の前では稲荷社、「行基さんの投げ石」とやらを見る。そのすぐ近くに横穴式古墳のような小さな横穴がある。これが古墳か否かは不明とのこと。天満神社の祭神は菅原道真公。社殿は一間社春日造の柿葺の小さな社。でも、社殿前の格子は風情があり、好ましく思った。どうしてここに天満神社があるのか不思議。どのようなゆかりがあるのか知りたい。元禄10年に再建された記録があるとのことだが、創建は何時ごろだったか知りたい。知りたい気持ちがますます強まる。空があやしくなってきた。天神川にあるしだれ桜はすでに花の季節を終え、ただの大木であった。だが、幹の周りは桜特有の模様とつやを持ち、「私は桜の木だ」と主張しているようだった。正午を過ぎ道筋が遠回りになることもあり八幡神社はパス。そのまま中山寺へ。このお寺は聖徳太子の創建であることもうろ覚えで、ただ、安産祈願するお寺、観音霊場のお寺とだけしか意識していなかった。しかし、平成7年の被災直後の様子がまざまざと思い出された。二度も火災に遭い、またまた平成の震災で被災したものの、今日見るように見事に復興したことが嬉しく、ていねいにお参りしようと思った。

参加者一同、何事も無くゴールに到着。小雨が降り出し、ここで解散。無事に歩き通せたことに一安心。これもご神仏のご加護かと。休憩所で昼食を探り、雨宿りした後、梅林へ。藤を見た。それも白い藤を。満開であった。その花は通常の薄紫の花とは異なり、少しふっくらしていた。来年は梅見に来よう！ 鬼に笑われるかな？

Q&A コーナー

Q 千手観音や不空羂索観音には目が三つありますがそれはどうしてですか。

A 不空羂索観音や唐招提寺の千手観音には額のところには縦の目があります。この目を第三の目といいます。二つの目はごまかすことはできても仏眼である縦の目はごまかすことは出来ません。つまり心の目・自分の良心はごまかすことはできないという意味が第三の目にはあるのです。

<春季研修旅行>

元伊勢を訪ねて

二宮慶子

5月17日 気持ちよく晴れた朝、会員30名他8名で出発しました。最初の「元伊勢外宮」では石段を上がっていくうちに目の前に見えた鳥居は、なんと皮のついた杉の黒木で作られていました。この皮のついたままの杉の木の鳥居は、この外宮と元伊勢内宮、京都の野々宮神社の三箇所しかないそうです。静かな境内で神職のお話を聞きながら、神さびた本殿や舞台を見ているうちに「この閑けさがいつまでも続き、どうか朽ち果てませんように」と願っていました。



元伊勢内宮にて

次の「元伊勢内宮」は、うっそうとした樹々の間にある長い長い階段を上り詰めた上にありました。本殿の前で禰宜さんからお話を聞きました。天照皇大神（あまてらすおおみかみ）が伊勢の五十鈴川に御鎮座されたあとも、ここは元伊勢さんとしてたくさんの方に信仰されているそうです。昭和天皇在位60年を記念して作られたお庭にある君が代碑、さざれ石等を見ながら「一願さん」へ。一願さんは、たった一つだけ願いを聞いて

くださるとか。「日室岳の神さま、あと何年、いえ何十年、足、腰、頭がしっかり・・・」とお願いしてきました。

そこから、あぶなかしく宮川溪谷へ降り、川原の石ころたどっていくと、大きな自然石の奥に、青く澄んだ水をたたえた静かな淵が見えました。これが「天の岩戸」だそうです。

昼食は、珍しいあまごという魚をいろいろで焼きながらおしゃべりもはずみ、おいしくいただきました。

「鬼の資料館」は、とてもおもしろい所です。館内のたくさんユニークな鬼たちに出会い、元気をもらいました。

最後になりましたが、元伊勢に着くまでのバスの中でのこと、小林さんと永野さんの息のあったペープサート「大江山」。皆さんシーンと見入ったり、大笑いしたりで心から楽しみました。また、帰りのバスでは、酒井さんの楽しいクイズに疲れた頭をふりしぼったり、池田さんのハーモニカの音色に心を癒されたりしながら、無事伊丹に帰ってきました。

有名な伊勢神宮へはこれからも行くこともあるでしょうが、今日行った元伊勢外宮・内宮へは自分から行くことはないだろうと思います。こういう珍しい場所へ連れて行って下さった皆様、本当にありがとうございました。



鬼の資料館前にて

去る5月31日に大阪府八尾市久宝寺の寺内町で屋外研修がありました。そのときの感想を皆さんにご披露したいと思います。

寺内町は中世・近世を通じて宗教都市であったと思われます。ある程度の自治組織および武装集団でもありました。久宝寺は鎌倉時代に生まれた新興宗教の浄土真宗（教主親鸞）が勢力を広げた地域です。石山本願寺やその後、京都の門徒が強力になり、時の將軍から東西本願寺に分離され、苦難の道を歩むこととなります。許麻神社は久宝寺の牛頭天王のほか多数の神が祭神として祀られています。そこで、この神社の狛犬を少し説明してみましましょう。狛犬の起源は古代オリエントにまで遡ります。国王が強大な力を得るために地上最強の動物とされていた獅子の力を王に宿らせると言う思想があり、王座の肘掛に獅子頭を刻んだりするようになりました。狛犬博物館（下呂温泉内）の上杉館長は、これを「ライオン座の思想」とよんでいます。ライオンが守護獣として尊重される風習は世界各国でよく見られるものです。ヨーロッパの家紋にはライオンをあらわしたものが多いですし、インドでは佛像の台座にライオンを刻み、「獅子座」とよんでいます。狛犬の雌雄ですが、狛犬が大衆化してからは、いろいろな説が生まれました。最も多いのは向かって右の獅子（阿像）は雄、左側（吽像）は雌というもの。狛犬の中には股間にくっきり男根や女陰を刻んだものもあります。一方、阿は弱いから吠えているので雌だという説もありますし、守護獣は戦う獣なのだから両方とも雄だ、などと諸説紛々です。これらは理屈をこねたがる人間の業が生み出したもので、これが正しいと決められるようなものでないと思います。

< 新入会員の紹介 >

入会によせて

窪田 良一

博物館で「文化財ボランティア養成講座」のチラシの「文化財に興味がある」という項目に目ざまり、受講させて戴くこととなり今日に到りました。

生涯現役、生涯学習をモットーにしてきましたが、H14年に現役を退きました。人生読み調べ習いつくせないまま未知の事柄で一パイです。残り少ない人生の一日一日を精一パイ有意義に、アクティブに生きてゆこうと思っています。皆様どうかよろしくご指導のほどお願いいたします。

□ お知らせ □ 平成17年度 市の善行賞「つつじ賞」の受賞

生涯学習フェスティバル・史跡有岡城跡指20周年記念事業などで有岡城跡・伊丹郷町を巡るガイドを実施。また、各小学校で地域の歴史や文化を子供たちに伝え、社会教育・文化活動の発展寄与したということで、当会が本年度の市の「つつじ賞」を受賞しました。

編集後記

6月18日に開催された第1回「ふるさと探訪」では多くの市民が参加され、暑い中ではありましたが元気に3時間歩きとおしました。とても好評で、次回もぜひ参加したいと言う方が大勢おられました。我々のボランティア活動も会員みなさんの熱意の下に着実に発展しております。多くの方々に喜んでいただける会として、更なる前進をいたしましょう。